

# 「旧石器時代と縄文時代の神埼」

講演者 神埼市役所 八尋 実係長

## 旧石器時代

旧石器時代は、神埼の歴史の始まりです。石を素材とした石器・道具を作る時代でした。

日本では約五万年前から一万二千年前が旧石器時代といわれます。旧石器時代は寒期と暖期を繰り返す氷河期の時代です。氷河期は、一番寒い時期、約100㍍海面が下がって日本列島と大陸は陸続きになります。大陸からナウマンゾウなど大きな動物が日本列島に渡ってきます。それを狩猟するため旧石器人も渡ってきました。

神埼市では現在、高速道路が走っている一帯に旧石器時代の遺跡が9ヶ所確認されています。標高約10㍍から北側にしか、この遺跡はありません。しかし、それより高地の脊振地区の城原川両脇の段丘には、今後調査で相当量の遺跡が発見されると思います。



船塚遺跡の全景

旧石器時代の遺跡は、志波屋、小瀬、朝日、城原の各1ヶ所、吉野ヶ里遺跡とその北側に1ヶ所、八子、二子の日の隈山の東台地に1ヶ所、そして唐香原、尾崎といった標高10㍍以上のラインを境にした地域にあり、このラインを境に南側は、深い谷地形で、北は丘陵地帯だったと推定されます。

船塚遺跡から出土した国府系ナイフ型石器

## 獲物追いキャンプ生活

今の地形とほぼ変わらない山麓線になります。伊万里市の腰岳からは、黒曜石キャンプ生活ですから集落や遺跡も小規模です。石器は、ナイフ型石器、尖頭器とか切る道具・刺す道具が主体です。

船塚遺跡は、志波屋にあり、今から約二万五千年前ごろの神埼で一番古い石器が出る遺跡です。石器は約二千点出ています。石や鹿の角、今で言うハンマーと安山岩が道具を作る主要な材料であり、当時の人们はこの石を求めて行きに集中している一つの理由です。

しかも、旧石器時代は狩猟社会で、動物を追いかねながら動いています。伊万里市の腰岳からは、黒曜石キャンプ生活ですから集落や遺跡も小規模です。石器は、ナイフ型石器、尖頭器とか切る道具・刺す道具が主体です。

船塚遺跡は、志波屋にあります。そこには、多くの人々が道具を持っています。石や鹿の角、今で言うハンマー

になる道具で割つていて。割つて、素材になる大きさの石の破片を作ります。その破片を細かく打ち碎いて道具を作ります。船塚の人たちはここに石材を運び加工していました。

船塚遺跡では石器のほかに、大きな石があり、周囲に小さい石があります。大きい石は石割台に使います。それとこぶし大の石を集めた所もありますが調理の場、いわゆる炉の跡です。

## 九州と近畿すでに交流

船塚遺跡の一番重要な点は、九州系と関係する人達と考えられます。そこにともと住んでいた人が道具を持って一緒に住みだした。少し極端な解釈ですが、九州系は近畿から岡山、広島、瀬戸内海沿岸での石器の作り方です。これが神埼の船塚遺跡では緒に出土しています。ということは、約二万五千年前に、近畿と九州の人達の交流があったという証拠です。石器の材料を求めたり、動物を追つて往来したりしたわけです。この船塚遺跡を作った人たちは、瀬戸内に住みだした。少し極端な解釈ですが、九州系は近畿から岡山、広島、瀬戸内海沿岸での石器の作り方です。これが神埼の船塚遺跡では緒に出土しています。

神埼市の歴史文化遺産などを知り、まちづくりに生かす人材育成講座「神埼塾」が9月5日から開講しました。講座は、来年2月6日まで、歴史を中心に15講座を予定しています。

開講にあたり、松本市長が「神埼市は、旧石器時代から近代に至るまで貴重な歴史文化遺産を有しています。塾を通じて、郷土の豊かな歴史文化に対する共通認識を持つてほしい。そして、できるだけ多くの人が市民学芸員となつて、行政と協働して活力あふれる神埼市をつくっていきましょう」と、塾開催の熱い思いを語りました。

今月号から「神埼塾」での講演内容の要約を連載します。

## 縄文時代

これを仕留めるため、飛び道具の弓矢が考案され土器が出現します。地形は、六千年前くらい前に、今の海面から約40㍍海面が高くなっています。40㍍ということは、日の隈山の裾野ぐら

いまで、海水が入ってきたと想定されま

す。そして約五千年前から今の海岸線に近づいていきます。それが海進・海退という現象の時期です。

遺跡が発見されています。旧石器時代の遺跡は神埼の山麓部だけに見つかっています。神埼最古の縄文遺跡・城原一本松遺跡では約一万年前から約八千年前、古墳時代、中世、現代の地層が重なっています。旧石器時代の大型動物に代わって一万年前の温暖期にはシカやイノシシなど動きの素早い小型動物が増えています。

## 城原川沿い遺跡集中

三千年前の縄文時代晩期に現在の佐賀平野の原形が出来ます。海だつた所がだんだん、陸地化して佐賀平野ができるといったと想定されます。

市内で一番高い脊振山の自衛隊の基地からも縄文時代の遺跡が発見されています。おそらく早期七千～八千年前位の遺跡です。それから脊振神社周辺、広瀬、志波屋、城原、尾崎地区周辺、少し下がつて八子、竹原、吉野ヶ里地区。

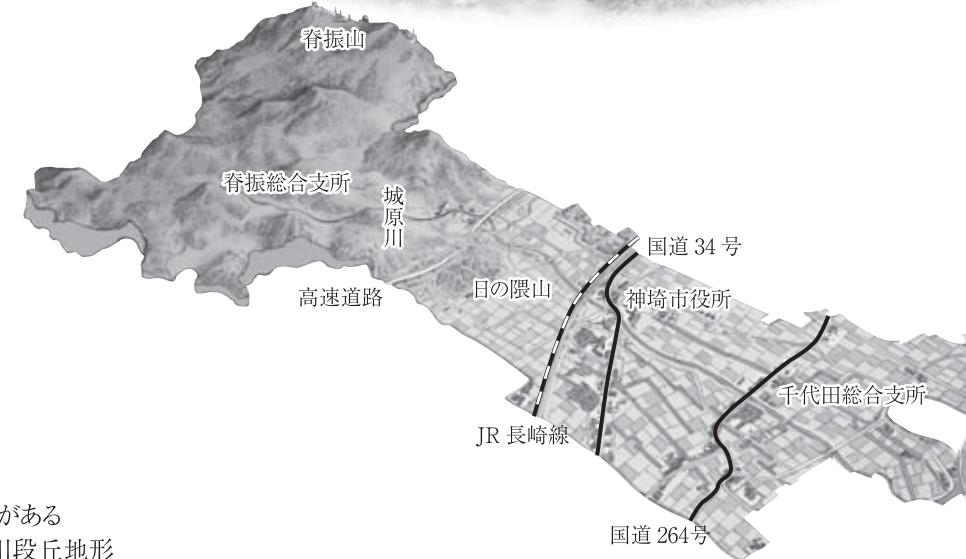


城原川沿いの脊振段丘



志波屋六本松遺跡出土の縄文時代後期の主器

志波屋六本松遺跡出土の縄文時代後期の主器



城原一本松遺跡がある  
朝日地区の城原川段丘地形

◎問い合わせ先  
神埼市役所 市長公室  
☎ 371-0102

旧石器時代、縄文時代から弥生時代にかけて佐賀平野が広がるにつれ、人々はだんだん平野の方に生活領域を拡大していきました。貝塚を伴った弥生時代の遺跡も千代田の国道沿線にあります。

市報かんざき 11月号

17

市報かんざき 11月号

16